

第6回 復興支援活動レポート

活動日：2011.9.3（土）

活動地：宮城県東松島市・石巻市・女川町

【行程】

AM5:00 出発

AM8:30 東松島市到着・被害状況視察

AM9:00 活動開始

PM3:00 活動終了

PM7:30 鶴岡着・解散



再開を目指す老人介護施設周辺に花を植えました。

【参加者（敬称略）】

●畑班

阿部昭裕（経済部）、福原英喜（西郷支所）、小松浩（南支所）、井上和華（北支所）、本間智恵（北支所）

●苗班

鈴木伸明（大山支所）、小泉倫子（人事課）、本間恵美子（生産資材課）、阿部奈緒（西郷支所）、眞田綾音（企画総務課）

●墓場班

佐藤佑馬（米穀畜産課）、林真太郎（北支所）、木村優友（JAG 西郷店）

●石巻視察班

鈴木大亮（企画総務課）、岡部映子（生活課） 以上 15 名



職員15人が参加し、4班に分かれて活動を行ないました。

前回までに引き続いての畑整備・苗配り活動に加えて、墓場の清掃活動を東松島市で実施した他、今回初めて石巻市・女川町にも足を運び、現地のJA職員と情報交換をしたり、炊き出し支援場所の現地視察なども行ないました。

9月3日（土）、宮城県東松島市で支援活動を行なう一方、隣接する石巻市と女川町にも足を運び、現地の JA 職員の案内のもと被害状況の視察や意見交換などを実施しました。

【進む仮設住宅の整備と、環境の格差】

東松島市の矢本地区には、東京ドームほどの敷地に広大な仮設住宅団地がいくつか完成しており、多くの人々が生活していました。コミュニティ形成のための集会所や図書館も整備されています。

この日はいくつかのボランティア団体が炊き出しなどを実施しており、当面は平日もこうした支援の予定が埋まっているとのことでした。ここの仮設住宅はアクセスがしやすく、生活者も多いことから全国のボランティアが活動しやすいというのが理由のようです。

一方で、アクセスが不便で生活者が少ない仮設住宅や避難所には、支援が不足しているのが現状です。



広大な敷地に 1000 人以上が暮らす仮設住宅団地。（東松島市）

同規模の仮設団地が、あと2つ建設中です。中央には集会所も設けられ、炊き出しなどの予定が日替わりで提示されます。

ここは大型ショッピングセンターが近く生活しやすい地区ですが、一人暮らしの高齢者にとっては不安な生活です。



【極限状態から再生を目指す人々と街】

宮城県女川町には、数十メートルの津波が襲来しました。比較的高い場所にある地域も、まるごと波にのまれ甚大な被害を出しました。現在は瓦礫こそ撤去されているものの、コンクリート造りのビルは横転したままです。

高台には避難所となっている体育館、その周辺には仮設住宅、さらにテント生活者も多くいます。このテント生活者は仮設住宅に入居できない人達です。

今後、この避難所で炊き出し支援を予定しています。

一方、石巻市の沿岸部も大きな被害の爪痕が今もなお残されたままです。商店街や広大な工業団地、漁業関係の施設も津波被害に遭い、地元産業の多くはストップしたままです。



避難所での炊き出し風景



船が刺さったのか、ビルに大きな穴が



瓦礫が撤去されると何も残っていません



手前のビルは横転しています



全農みやぎの農業倉庫



被災した車が山積み